

施策評価シート《マネジメントシート》

施策名	水産業の振興			
施策の体系	基本目標	ひとが賑わうまち	施策の主担当課名	農林水産課
	基本施策	産業活性化プロジェクト	関係課名	—
	施策コード	A-2-2		

① 施策の現状と課題	<p>近年、国際化の進展・健康志向を背景に水産物の世界的需要は高まっていますが、多くの水産資源が減少傾向にあり、資源管理の重要性が高まっています。また、藻場・干潟の減少や磯焼けの進行、漂流・漂着ゴミの増加等により水産動植物の生育環境が悪化しており、漁業生産への悪影響が懸念される状況となっています。</p> <p>本市においてもクルマエビ・ヨシエビの中間育成、ガザミの放流を行っていますが、平成25年度の漁獲量は513トンで横ばい傾向にとどまっています。このため、海面・内水面を通じた生育環境の改善及び資源の管理・回復、増養殖の推進が必要です。</p> <p>漁業就業者については、資源状況の悪化、魚価の低迷、燃油価格高騰といった経営環境の悪化に加え、公共事業予算（国費）の削減により漁港整備が遅れるなど、労働環境が改善されないことから、若い漁業者を中心に減少しています。また、漁船についても高船齢化が進行しており、こうした状況が続けば将来を担う就業者の確保や漁船取得が十分に望めず、近い将来において活力が急速に低下し、漁業生産の継続が困難となる事態が予測されます。</p> <p>このため、水産物の安定供給基盤の整備及び安心して定住できる災害に強い漁村の整備を推進するとともに、新規就業・参入を促進し、継続的に漁業活動を担い得る漁業経営、人づくりを進めていく必要があります。</p> <p>公設卸売市場については全国的に取扱量が減少しており、本市の魚市場についても同様で平成25年度の取扱量は2,000トンとなっています。このため、魚市場を流通拠点とし、産地の販売力強化と流通の効率化・高度化を促進するとともに水産物の付加価値の向上を図ります。</p>
	② 施策の基本方針

③ 施策の内容 (主要施策)	<p>主要施策名(1) づくり育てる漁業の推進</p> <p>中間育成・種苗放流等の資源管理型漁業及び海面養殖事業を推進し、資源の増殖を図るとともに、漁場管理と漁獲量の増大に努めます。</p>
	<p>主要施策名(2) 生育環境の改善</p> <p>海域環境に応じた手法により藻場・干潟の保全及び生育環境の改善に努めます。</p>
	<p>主要施策名(3) 漁業基盤の整備</p> <p>沿岸漁業の陸揚げ拠点となる漁港の整備を進め、漁船漁業の近代化と充実を図ります。</p>
	<p>主要施策名(4) 災害に強い漁業地域づくり</p> <p>堤防等の海岸保全施設や避難路・避難地の整備を進め、防災力の強化を図ります。</p>
	<p>主要施策名(5) 漁業就業者の育成</p> <p>漁業就業者の減少・高齢化に対応するため、定住条件の整備を図り、意欲的な新規就業者の参入を促進するとともに、担い手たる漁業者の漁業技術及び経営管理能力の向上や後継者の育成を図ります。</p>
	<p>主要施策名(6) 販売力強化と流通の効率化・高度化</p> <p>魚市場を流通拠点とし、産地と消費者とをつなぐ多様な流通経路の構築により産地の販売力強化を図るとともに、情報インフラを活用した販路拡大を推進します。</p>
	<p>主要施策名(7) 水産物の付加価値化</p> <p>水産物のブランド化や活魚の出荷体制を強化し、付加価値の向上を図ります。</p>

④ 目標指標	指標名(単位)	過年度実績				評価年度	目標値		達成度の説明 (H26年度)
		H22年度	H23年度	H24年度	H25年度		H26年度	H27年度	
目標指標	クルマエビ・ヨシエビ・ガザミの漁獲量(t)	500	494	499	513	296	550	570	港勢調査による クルマエビ：15t、ヨシエビ：160t、 ガザミ：121t
	漁港整備の進捗率(%)	53.0	54.0	59.0	70.0	75.0	85.0	90.0	事業費(～H26) / 総事業費 =4,496百万円 / 5,997百万円 =75%
	海岸保全施設整備の進捗率(%)	52.0	55.0	59.0	61.0	62.0	65.0	69.0	事業費(～H26) / 総事業費 =777百万円 / 1,259百万円 =62%
	公設卸売市場の取扱量(t)	2,600	2,400	2,200	2,000	1,738	2,000	2,000	取扱量報告書による
		H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	

⑤ 施策構成 事務事業	事務事業名	事務事業の内容	事業費(人件費込、単位：千円)			優先順位
			H25年度 実績値	H26年度 実績値	H27年度 見込額	
1	づくり育てる漁業事業	「栽培漁業」、「浅海増殖」等の事業を推進し、豊前海における水産資源及び漁業経営の安定を図る。	8,038	7,685	10,087	2
2	水産物供給基盤機能保全事業(行橋地区)	漁港施設の長寿命化や更新コストの平準化・縮減を図るための計画書を作成。	0	0	16,692	6
3	沓尾漁港整備事業	沓尾漁港の整備を進め、水産物の安定的な供給基盤の整備を図る。	559,185	241,642	554,858	1
4	蓑島漁港整備事業	蓑島漁港の整備を進め、水産物の安定的な供給基盤の整備を図る。	54,880	49,311	63,611	4
5	海岸保全施設整備事業(蓑島)	高潮対策等の整備を進め、背後集落の住民の人命及び財産の防護を図る。	0	0	48,547	5
6	地域自主戦略交付金事業(稲童漁港)	漁船漁業の安全性や効率化を向上させ、漁村地域の活性化を図る。	107,710	28,021	0	—
7	農山漁村地域整備交付金事業(長井漁港)	高潮対策等の整備を進め、背後集落の住民の人命及び財産の防護を図る。	37,742	0	0	—
8	魚市場管理事業	行橋市魚市場の管理・運営を行ない、漁食の振興を図る。	0	7,478	13,908	3
9						
10						
11						
12						
13						
14						

⑥ 施策全体の今後の方針と展望 (主要部長の意見)	<p>今後とも、国・県に要望し、沓尾漁港の早期完成をはじめ、漁港の整備、堤防等海岸保全施設等の整備に向けた取り組みを行います。また、クルマエビ・ヨシエビ・ガザミの種苗受入、放流を毎年実施し、漁業資源の回復に努め、自給率の向上に努めます。現在、福岡県豊前海研究所を中心に、豊前海沿岸市町で豊前海水産研究会を立ち上げ、様々な取り組みを行うこととしておりますが、この中で水産物のブランド化をはじめ、水産振興への取り組みを行って行きたい。また、魚市場については、経営状況はかなり厳しい状況ではありますが、施設の設置者・管理者として、今後とも行橋水産と協議を重ね、存続に向けた取り組みを行っていく。</p>
---------------------------------	--

⑦ 総合計画審議会からの意見及び指摘事項等	<p>行橋市においても沿岸漁業の漁獲量は低水準の状態が続いている中、これまでも水産資源の回復に向けて中間育成や種苗放流等を行っているとのことだが、目標の漁獲量確保に向けて、その効果について検証を行い、そこで得られた知見をもとに、合理的かつ確かな対策を実施する必要がある。また、漁港整備についても今後の後継者を含めた漁業人口の推移を見極めを行い、費用対効果の検討を行ってほしい。</p> <p>また、地元と一緒に水産資源ブランドの開発や販路拡大等により水産物の付加価値を向上させて漁業の振興、従事者の確保に努めてほしい。</p> <p>魚市場については、全国的な傾向と同じく、本市の取扱量も年々減少している。このままでは、魚市場の存続も危機的状況になる可能性もあるため、今後の対策について、運営企業との協議を引き続き行ってほしい。</p>
--------------------------	--

⑧ 施策に対する市の最終方針	<p>豊前海における漁獲量の低迷、魚食需要の減少による魚価格の下落、漁師の高齢化と深刻な後継者不足等多くの課題を抱える中で、今後とも更なる漁業振興を図っていく必要がございます。現在、行橋市ではづくり育てる漁業として、アサリ、エビ、カニなどの種苗の育成や放流を行い、水産資源の確保に努めるとともに、漁港整備の早期完成に向け全力で取り組んでおります。公設卸売市場については、取扱量の減少により収益が悪化しており、販売力強化を含め、経営の安定化に向けた取り組みを引き続き行ってまいります。これら全ての施策・事業については、費用対効果の検証を十分に踏まえ実施してまいります。さらに、漁協等関係各団体と連携を図りながら、水産業者がやりがいのある水産業としての環境整備を進め、ブランド化や特産品づくりを積極的に進めてまいります。</p>
-------------------	--